

第3章 都市整備構想

3-1 都市整備の基本理念と将来像

「桑名市総合計画」では、まちづくりの基本理念、桑名市の将来像を以下のように設定しています。本プランにおいても、この基本理念を踏まえるとともに、将来像の実現に向けて都市整備を推進するものとします。

基本理念

桑名市がもつ歴史・文化・生活の「本物」の価値、力を「見つけ出し」「磨き上げ」「大きくする」力、いわゆる「本物力」、桑名の力＝「桑名力」を活かして「まちづくり」に取組みます。

本 物 力 こ そ、桑 名 力。

～ “本物” であふれる桑名市へ～

私たちは「桑名力」を発揮して、桑名のまちづくりを進めていきます。

将来像

桑名市が今まで重視してきた「快適な暮らしを次世代にも誇れるまち」、「本物力」が発揮され、「桑名市の魅力が自他ともに認められるまち」を目指し、将来像を以下のように設定します。

次世代へと続く 快適な暮らしの中で
ゆるぎない魅力が 本物として
成長し続けるまち 桑名

さらに、「桑名市総合計画」では、まちづくりの基本視点として以下の2点を掲げており、本プランにおいてもこれらの視点に留意します。

まちづくりの基本視点

○まちづくり市民力の発揮

桑名に関わる全ての人たちと情報や地域のあるべき姿を共有して、みんなの力でいろいろな課題を解決していきます。

○次世代への責任

子どもや孫の世代、これから桑名に住む人たちに責任を持って引き継げるまちにしていきます。

3-2 都市整備の目標

3-1「都市整備の基本理念と将来像」を踏まえるとともに、近年の社会情勢の変化によって生じる都市整備の課題、および「桑名市立地適正化計画」の推進に対応するため、都市整備の目標を以下のように設定します。

なお、IoTやAIなど新たな技術の急速な進展に伴い、都市整備に求められるニーズも現時点では想定しきれない形で変化する可能性が高く、Society5.0やSDGsなどの社会的な取組みと連動しつつ、必要に応じて柔軟な対応を図ります。

“快適な暮らし”を実現するまちづくり

今後さらに少子高齢化や災害の激甚化が想定される中で、限られた財源のもと持続可能な都市づくりを進めていくことが重要です。このため、桑名市立地適正化計画と連携しながら、これまで桑名がつくり、育ててきた快適な住環境の維持・向上を図るとともに、災害への安全性を確保するための施設整備や土地利用誘導に努めます。

(1) 利便性の高いコンパクトな市街地整備

これまでに集積・立地している魅力ある既存ストックを維持・活用します。

集約型都市構造への転換を図るため、「桑名市立地適正化計画」に基づき、居住誘導区域（市街化区域内）に住民の居住を誘導するとともに、都市機能誘導区域へ都市機能（商業施設、福祉施設等）を誘導します。

都市施設が集積する中心市街地（都市機能誘導区域）においては、商店街の活性化や生活サービス機能の充実を図るとともに、その利便性を有効に活用し、高齢者や子育て世帯が歩ける範囲で様々な都市サービスを受けながら快適に暮らすことができるように住宅の建替え・整備や都市施設の機能更新を進めるなど、便利でコンパクトな市街地の再生を推進します。

都市機能誘導区域へ商業施設を誘導するとともに、郊外の住宅地の高齢者の生活の利便性を確保するために、移動手段の確保や必要に応じた小規模店舗の立地誘導を図ります。

高齢者をはじめとする住民が中心市街地（都市機能誘導区域）へ便利に移動できるよう公共交通の維持・増進を図ります。

(2) 魅力ある住環境の推進

市内各所の特性に応じた景観保全、多様な年代層に配慮した快適で良好な住宅、住宅地などの整備を進めます。

(3) すべての人にやさしいまちづくり

歩行者空間をはじめ、公共施設などにユニバーサルデザインを取り入れ、すべての人にやさしいま

ちづくりを進めます。

(4) 政策的な人口増加策と定住化促進

名古屋市とその周辺への通勤者や三重県北勢地域の企業立地の進展に伴い、増加する就業人口を適切に受け入れるため、市街化区域の低未利用地における住宅地開発を計画的に進めるとともに、質の高い居住環境を整備し、定住化を促進します。

今後増加が予想される空き家の有効活用を進めることにより、定住化の促進と安全・安心な居住環境の形成を図ります。

(5) 災害に強い安全なまちづくりの推進

南海トラフ地震等により想定される甚大な被害に対し、防災施設整備等のハード対策に加え、都市計画として防災的視点から地震・津波リスクの高い場所における居住系土地利用の抑制など、土地利用の誘導を図ります。

木曾三川河口地区を中心に、排水対策や堤防の補強など水害対策を強化するとともに、中小河川の整備や地域の保水・遊水機能の向上など総合的な治水対策を推進します。また、拠点施設や住宅の耐震化、ライフラインの強化など災害に強いまちづくりを推進します。

河川整備、排水機の整備を進めるとともに、緑の持つ保水機能など自然が持つ防災機能の維持・回復を図るとともに、密集市街地の防災力を高め、災害に強い都市環境を形成します。

“桑名市の魅力（＝本物力）”を活かしたまちづくり

桑名市の魅力の一つとして、日本の東西・南北を結ぶ交通・物流の要衝としての地理的優位性を活かし、産業振興や多様な交流の促進に寄与する都市づくりを進めます。また、市固有の自然の風景や、先人たちが築き上げた歴史・文化、地域産業等を活かした桑名のブランドづくりと連携して、道路・公園等の景観整備や民間施設の景観誘導等、魅力あふれる都市デザインを進めます。

(1) 地理的優位性の活用

将来にわたって桑名市の活力を維持・強化するために、広域的な幹線道路ネットワークの要衝にある優れた交通条件を活用したまちづくりを進めます。

企業立地、観光交流をサポートする広域交通網の充実や都市内幹線道路の整備を図ります。

(2) 桑名ブランドの推進

桑名のまちなみをはじめとする都市デザインを桑名ブランドとして誇れるよう取組みを進めます。

伝統産業、農業、漁業といった地域産業と観光交流との連携を図り、地域産業の付加価値を高め、産

業の維持・振興を図ります。

(3) 新産業の集積を促進する産業ゾーンの形成

優れた交通条件と企業立地可能な土地条件を有している桑名市の特性を活かして新規企業の立地を促進するとともに、企業間連携による新技術・新産業の創出を促すために、新産業が集積する産業ゾーンの整備や高速道路のインターチェンジと市内の主要拠点を結ぶ道路体系の整備を推進します。

(4) 地域資源の魅力発揮と観光交流ゾーンの形成

豊富な歴史・文化と大規模集客施設が立地する桑名市の特性を活かし、観光交流基盤を整備して観光客の拡大をめざします。

山・川、海に囲まれた豊かな自然資源や城下町等の歴史文化などの地域資源を磨き上げ、多くの観光客が訪れる観光交流ゾーンの整備を進めるとともに、市民がそれらの価値を再認識し、親しみ誇りの持てる資源として継承する活動を支援します。

水と緑の保全・再生と活用を進め、うるおいのある生活環境と魅力ある景観形成を進めます。

「桑名市景観計画」に基づき、良好な都市景観を維持・形成することにより観光交流を促進します。

(5) 緑地の保全と創出および水と緑のネットワーク

地球環境への負荷の軽減とうるおいのある都市環境を実現するために、まとまって残されている緑地の保全を図るとともに、道路・公共施設、民間施設内の緑の創出を図ります。また、生物の生息環境を保持するとともに、視覚的にもまとまった自然景観を形成しうるおいのある都市環境を実現するために、緑地・公園と河川を連続的につなげた水と緑のネットワークを形成します。

都市公園等については、魅力増進や利用の向上を目指し、民間活力の導入も視野にあり方を検討します。

“市民力”を活かしたまちづくり

今後の都市づくりにおいては、新たな開発によって市街地を拡大していくよりもむしろ、既存の市街地を再整備して、快適な暮らしを支え、より魅力を感じられる環境に改善していくことが重要になります。こうした取組みには、それぞれの地域で生活を営んでいる住民・事業者等の理解と協力が不可欠であることから、市民と行政が向き合い「直接対話」しながら、地域の問題を共に考え、協働して課題解決や魅力向上に取り組む都市づくり・地域づくりを進めます。

(1) 市民の知恵と協力による既存ストックの改善と有効利用

道路、公園、各種公共施設および民間施設を地域のニーズに応じた使いやすい都市施設として再整備し、既存ストックの有効利用を図ります。そのために、再整備の検討にあたって市民の知恵を集める

とともに、管理運営に市民が参画する仕組みづくりを進めます。

(2) 環境改善に向けた自主的な地域活動の推進

安心して住み続けられる魅力的なまちを実現するためには、地域住民自身が自分のまちは自ら守るという意識を持ってお互いに協力し合うとともに、地域に愛着を持ち、地域の歴史・文化・自然を大切にすることが重要です。そのため、防犯・防災活動、地域資源の保全・活用などの地域住民の自主的な活動による環境改善を推進します。

(3) 地域住民主体のまちづくりの推進体制の整備

地域住民主体のまちづくりを推進するために、地域住民の参加による地域別計画を策定し、地域の課題と地域の整備方針についての地域住民の共通理解を形成します。また、この計画を推進するために、地域住民の主体的なまちづくり（エリアマネジメント）を支援する仕組みを整備します。

(4) 活力のある自立したまちづくりの推進

自立したまちづくりを推進するためには、既存ストックの有効利用と地域住民の自主的な活動の推進が必要です。同時に、産業等の活性化を通じて安定した財政基盤の確立に努めます。

3-3 将来の都市構造

桑名市の将来の都市構造は、次のような都市軸と機能配置を想定します。

広域連携軸

○広域連携軸の性格と構成

- ・リニア中央新幹線との連携も視野に入れつつ、桑名市の広域的な位置づけと生産・物流の機能性を左右する広域的な都市間連携軸の充実を図ります。
- ・伊勢湾岸道路（新名神高速道路）、東名阪自動車道、国道1号・国道23号・国道258号といった幹線道路ネットワークとJR線・近鉄線・養老鉄道線の鉄道ネットワークを構成します。

○広域連携軸を活かした機能配置

- ・東名阪自動車道の長島インターチェンジ、桑名東インターチェンジおよび大山田パーキングエリアでのスマートインターチェンジ構想周辺地区において産業系ゾーンを配置します。
- ・伊勢湾岸道路（新名神高速道路）の湾岸長島インターチェンジ周辺地区において観光系ゾーンを、湾岸桑名インターチェンジ周辺地区において産業系ゾーンを配置します。
- ・鉄道系のネットワークを活かし、桑名駅周辺地区に商業・サービス・住宅などの各種都市機能の集積拠点となる中心市街地ゾーンを配置します。

都市内連携軸

○都市内連携軸の性格と構成

- ・広域連携軸によって期待される波及効果を市域全体に及ぼすために広域連携軸と一体的に都市軸を形成します。
- ・市内各地区にある多様な資源をネットワークし、桑名市の個性と魅力を形成する連携軸を充実します。
- ・市内の多様な自然をネットワークし、環境負荷の少ない持続可能な都市づくりのための軸を形成します。
- ・都市内幹線道路、三岐鉄道北勢線、河川および連続した緑地によって構成します。

○都市内連携軸を中心とした機能配置

- ・広域連携軸と一体化した道路系の連携軸を強化し、多度地域に産業系ゾーンを配置します。
- ・桑名駅から益生駅周辺の既成市街地地区と西部の住宅市街地、長島地域および多度地域の市街地間を結ぶ道路を中心とした連携軸の強化を図るとともに、相互を結ぶ水とみどりの軸を形成します。
- ・城下町地区を歴史景観ゾーンとして位置づけるとともに、水の軸と一体化した観光系ゾーンを形成します。
- ・多度地域の居住系ゾーンの門前町と多度山の緑地保全ゾーンの多度山・多度峡を一体化した観光系ゾーンを形成します。

図3-1 将来の都市構造



